

信ず。

各府縣共道路愛護精神の發揚を希望力説すると共に種々なる規定を設けて便を圖りつゝあるも其の効果たるや牛歩にも劣り實に我等當事者の残念に思ふ處である。

故に我々が等しく各市町村共に土木技術者を常置或は駐在を希望し且一般民衆の道路愛護觀念の發揮を圖り道路愛

護會の設立に盡力奔走し市町村及一般民衆の良き伴侶とな

り又府縣其の他の公共團體に於て市町村土木吏員を一堂に集めて座談會、研究會講話會訓話の如き事を爲して道路に興味を興へ認識を深めて萬遺憾無きを期して萬國に比類無き土木國の實現を希望して止まない次第である。(終り)

昭和十年度國直轄

愛媛(二十四號)國道改良工事概要

N T 生

此の概要は、内務省神戸土木出張所より頂いた本工事の竣功圖書と、工事を直接擔當せられた羽賀内務技師の御厚意に依り掲記し得たものである。(七、一三)

(一) はし が き

二十四號國道の中愛媛縣内に於ける國直轄改良工事は、

昭和六年度に温泉郡北吉井村志津川より同郡久米村鷹の子

に至る

延長六、

八八二

米と、

周桑郡

石根村

妙口よ

り同郡

同村安

井に至

る延長

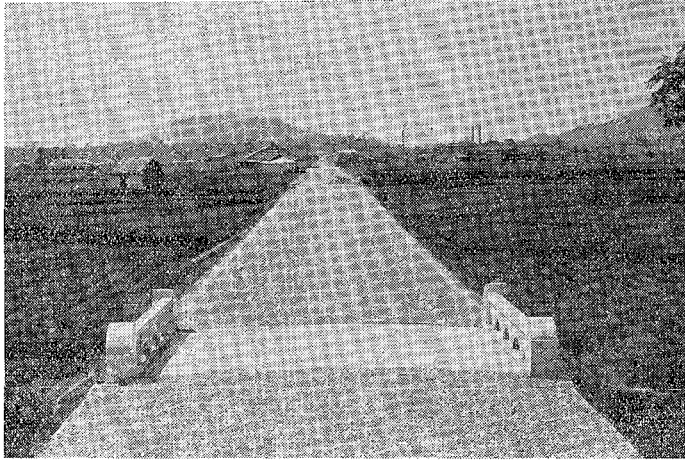
四、六

八〇米

を工事

費二八

八、〇八八圓を以て改良したるも、其の後豫算の関係上引



一部の道路を工竣

續いての改良は實施せられざりしが、昭和十年度に至り温

泉郡久

米村南

久米よ

り松山

市新立

町間延

長三、

四五二

米を工

事費一

七〇、

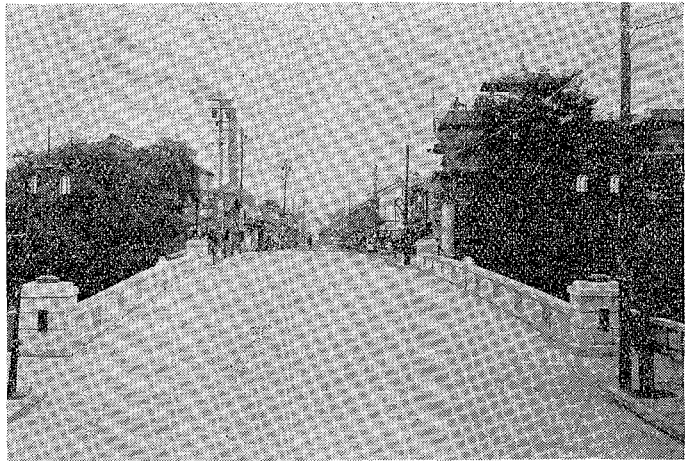
〇〇〇

圓を以

て改良

せられ

また本十一年度工事としては松山市新立町より鮎屋町に至



橋新立を工竣

る七五七米の區間を工事費一八〇、〇〇〇圓を以て着工し
目下工事中に屬す。

昭和十年度の工事概要を摘記すれば次の如し。

(二) 沿 革

國道二十四號線は香川縣仲多度郡瀧川村に於て二十三號
國道より分岐し愛媛縣宇摩郡川之江町經由の上松山市に達
する路線にして、高松、松山、兩都市を連結する樞要なる
幹線なり。

而して其沿線地方は、各種の農産物並に林産物等極めて
豊富なると共に近時工業の勦興著しく之が利用は頗る増加
し、交通量は逐年激増の趨勢にあり。

然るに當國道の現況は幅員狹隘、屈曲多く、各種構造物
の腐朽、路面の荒廢亦著しく、交通の安全、疏通を期し難
く産業の發達を阻害すること夥しき状態にあるを以て之が
改良は夙に唱導せられたる所なり。

即ち地元官民協力其の實情を具申したる結果、政府亦觀
る所ありて、昭和十年年度農村其他應急土木事業として先づ

久米村、松山市間を事業費一七〇、〇〇〇圓を以て内務大
臣直接施行の下に改良の議、決定するに至れるものなり。

(三) 改 築 概 要

(イ) 改良路線

本工事は愛媛縣溫泉郡久米村大字南久米地内を起點と
し、概して現國道路線に沿ひ、幅員を擴張するものとし
曲線半徑並に勾配を緩和し、新立橋を経て松山市新立町
に至り同町一丁目地内を終點とする延長三、四五二米の
區間とす。

(ロ) 工事執行地名

愛媛縣溫泉郡久米村大字南久米、北久米、福音寺

同縣同郡桑原村大字三町、松末、東本

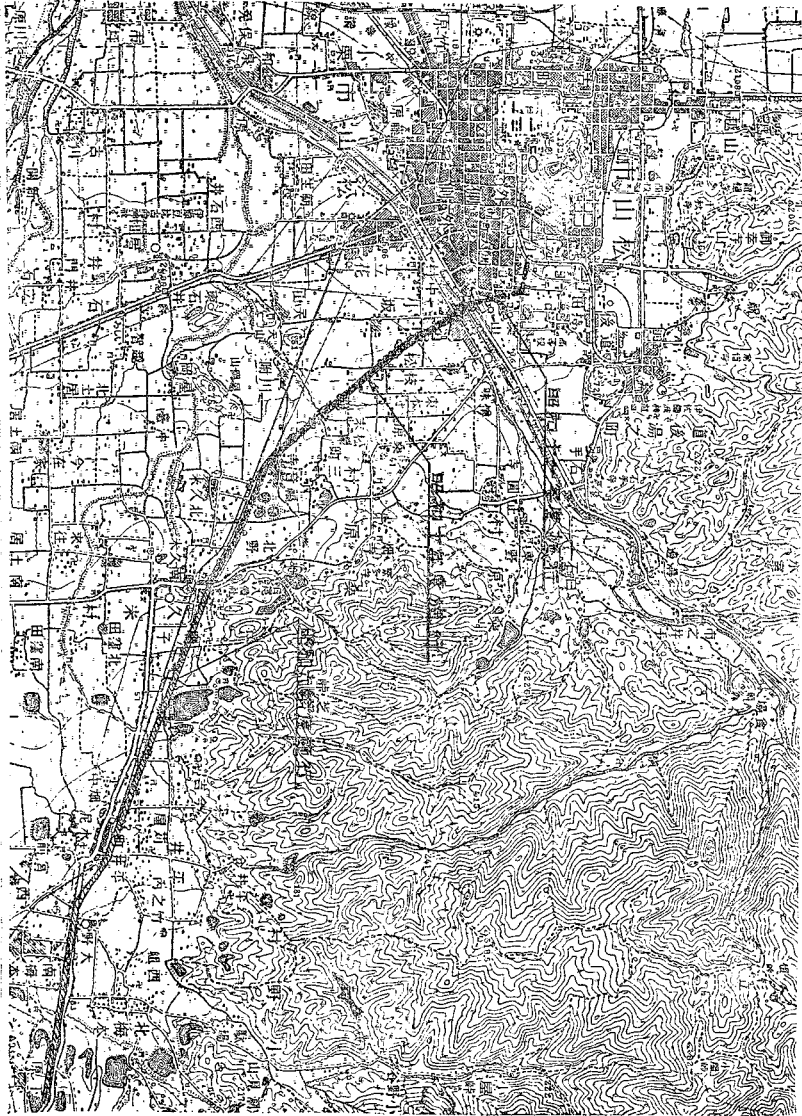
同縣松山市枝松町、小坂町、日之出町、新立町

(ハ) 工事延長 三、四五二米

内 道路延長 三、四〇五米
橋梁延長 四七米

(ニ) 道 路

路線一般平面圖



起點より三、三二〇・七米迄の區間は全幅員八・五米、有効七・五米とし、路面は厚八糎砂利敷仕上げ、横斷勾配は四％拋物線形とす。

新立橋前後延長一〇四・八米の區間は幅員一五米、歩車道を區分し、車道一〇米歩道各々二・五米とし街渠並に側溝を設く。

車道は横斷勾配二％拋物線形にして、厚二〇糎二層式セメントコンクリート鋪裝、歩道は厚六糎コンクリートブロック鋪裝とす。

(ホ) 橋梁

橋梁は三個所にして松末橋、馬場川橋及び新立橋とす

(1) 松末橋 橋種 鐵筋コンクリート丁型桁橋

橋長 六・四米 有効幅員七・五米 單徑間

基礎 地杭生松丸太、根固栗石

橋面 コンクリート鋪裝

(2) 馬場川橋 橋種 鐵筋コンクリート床版橋

橋長 四・一米 有効幅員七・五米 單徑間

(3) 新立橋

基礎 地杭生松丸太、根固栗石

橋面 コンクリート鋪裝

橋種 メラン式鐵筋コンクリート無鉸拱橋

橋長 三六・五米 有効幅員二米 單徑間

純徑間三六・五米 純拱矢 三・三七五米

拱形 拋物線形 起拱厚一・六米 拱頂厚

〇・五米

橋面 アスファルトブロック鋪裝

基礎 地杭生松丸太 (長三・六米末口二〇

糎) 根固栗石

橋臺 二基、栗石交鐵筋コンクリート 九

二五・〇七立米

橋體 一徑間、メラン式鐵筋コンクリート

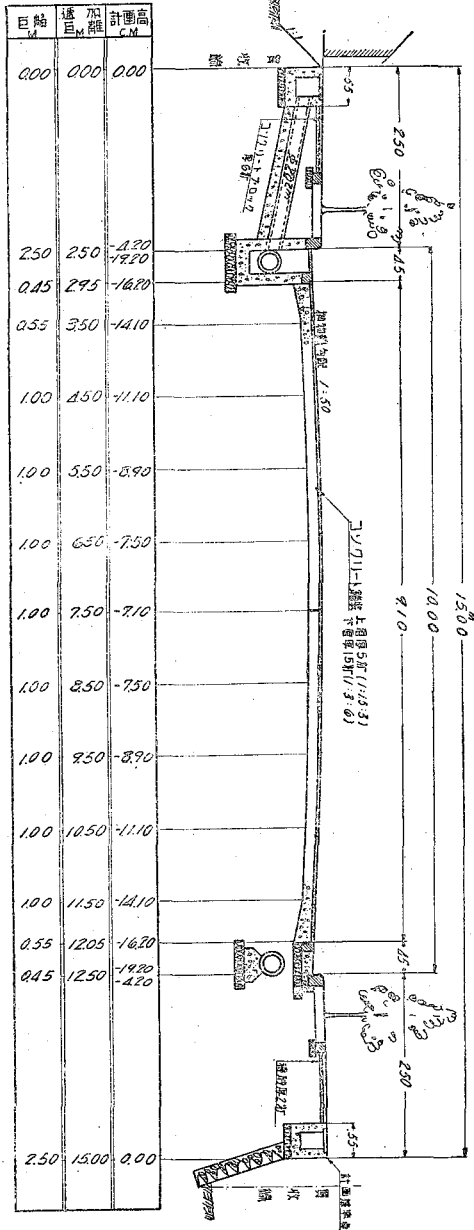
五九三・一七立米

表裝 側壁及高欄、人造洗出仕上 拱肋モ

ルタル仕上

照明設備 四基

路面横断定規圖(其一)



使用主材料 コンクリート量 一、五四七

・二七立米

セメント 四一二・九〇〇疋

砂 一、〇〇三・〇四立米

砂利 一、四〇五・七〇立米

栗石 四六九・三〇立米

鋼材 七四・五疋
鋼棒 三七、八五六疋

使用延人員 一〇、一四二人

工費 四六、五六〇圓四六〇

(四) 施工概要

各工事は何れも直營を以て施行したるものにして盛土用土砂及び各工用、砂、砂利、栗石は重信川並に小野川河原に於て人力採取の上、トラツク又は牛馬車により運搬、使用したり。

其の量 盛土用土砂 一、九六〇・〇立米

砂 一、四七六・二立米

砂利 四、三一・三立米

栗石 一、五五八・七立米

施工に當り使用したる主要器械は左の如し。

| 名 稱 | 形 狀 | 寸 法 | 數量 |
|--------|---------------------|-----|----|
| 道路輾壓機 | 八咫タンDEM型、ディーゼルエンジン付 | | 一臺 |
| 混凝土混合機 | 一〇切練ドラム型、發動機付 | | 〃 |
| 混凝土混合機 | 油發式一四切練、十馬力石油發動機付 | | 〃 |

說 苑

混凝土混合機 一四切練、一〇馬力石油發動機付
捲 揚 機 能力、二〇〇疋、ドラム徑、三〇〇疋、長五〇〇疋
石油發動機 一〇馬力陸用氣筒直徑、六五一疋
〃

本工事は昭和十年七月着手し同十一年六月竣功に到れるものにして、使用労働者延人員は三六、七九一人餘に及びり。

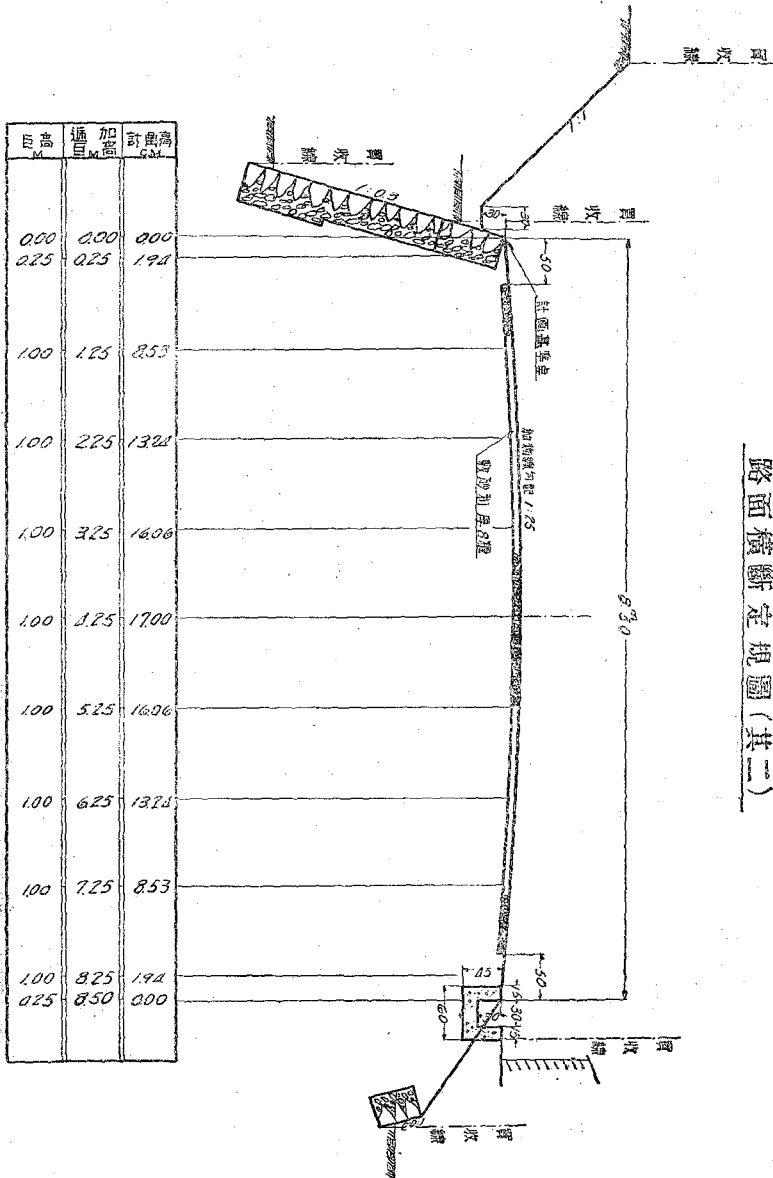
(五) 工 費

事業費支出額左の如し。(昭和十一年五月末現在)

| 費 目 | 支出金額 | 摘 要 |
|-----------|----------|--------------------------|
| 工 事 費 | 九、〇九・五〇 | |
| 道 路 費 | 四、八九・三〇 | |
| 橋 梁 費 | 三、三〇・三〇 | |
| 土 地 買 收 費 | 一五、〇三・四〇 | 買收總反別 一五・〇三 ^反 |
| 物件移轉其他補償費 | 三、六六・〇〇 | 家屋九〇棟 一・五坪餘 |
| 器 具 機 械 費 | 八、三三・九〇 | |
| 共濟組合給與金 | 三三・三〇 | |
| 雜 費 | 一三、九〇・六〇 | |
| 計 | 一六、四三・七〇 | |

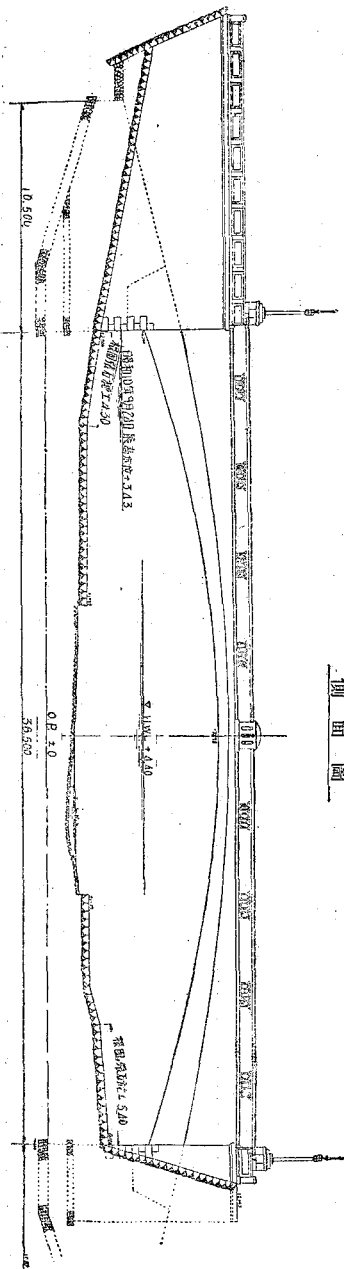
(以上)

路面横断面定規圖(其二)

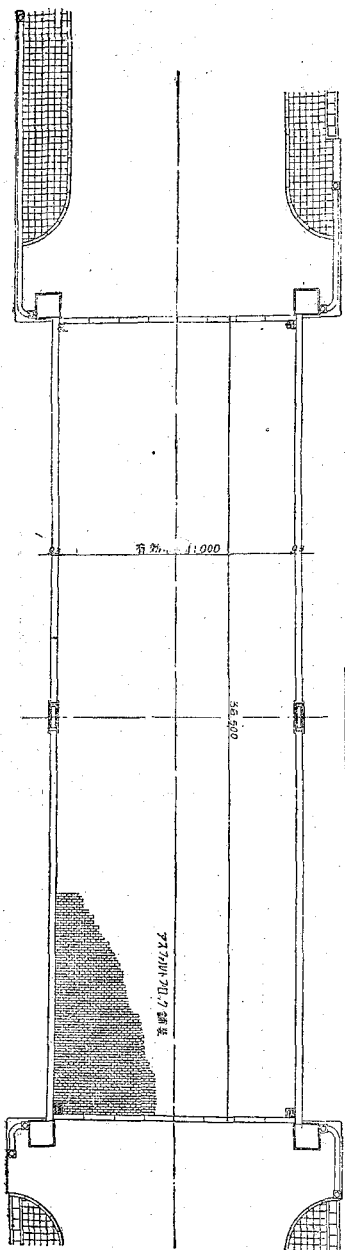


新立橋

側面圖



平面圖



說苑